

発行所
カトリック福江教会
広報委員会
五島市末広町3-6
☎ 0959(72)3957
●ホームページ●
<http://fukuechurch.jimdo.com>

『ロザリオのスズメ』

助任司祭 小島 明

ある修道会の神父様がロザリオの歴史を黙想会の時に話してくださいました。まず、そのお話をまとめてご紹介いたします。

ロザリオの祈りは「聖母マリアへの祈り」を唱えながら、福音書の中に記されるキリストの主な出来事を黙想していく祈りです。「ロザリオ」という言葉はラテン語では「ロザリウム」つまり「バラの冠」という意味を持っていきます。「聖母マリアへの祈り」一つをバラの花と見なし、それを連続して唱えることでバラの花冠を編み上げるといふイメージからきています。又、「コンタツ」という呼び方もありますが、これはポ

ルトガル語の「数える」から来ているようです。

ロザリオの歴史を振り返ると、詩編を唱える「聖務日課」にその起源を見ることが出来ます。初代教会では聖パウロの「絶えず祈れ」という言葉を受けて、詩編を決まった時間に分割してとなえるようになりました。この祈りを唱えるためには文字が読めることが前提ですが、古代中世では誰もが字を読めたわけではありません。ですから当時「聖務日課」は、主に修道者の間でしか行われていませんでした。しかし、いつの時代にも、神に心を向けて神との対話を望む人々がいます。信徒の

中にも、「聖務日課」のような祈りをするのが出来ないかと考える人が出てきました。そこで考え出されたのが一五〇編の詩編の代わりに「主の祈り」を一五〇回唱える方法です。これが今日のロザリオの歴史的背景になっていきます。

もう一つの背景として、聖母マリアへの敬愛があります。人々の間に聖母への敬愛が広まるにつれ、修道院では「聖務日課」の他に「聖母の小聖務日課」が付け加えられるようになりました。そして、信徒達の間でも「聖母の小聖務日課」を唱えたという望みが生まれて、一五〇編の詩編の代わりに聖母マリアへの祈りを一五〇回唱えるようになったといわれています。

また、言い伝えによると、ロザリオの祈りは、ドミニコ会を創立した聖ドミニコが、アルピ派の異端者に宣教しようとしたとき、聖母マリアに勧められた祈りだったともいわれています。ドミニコはこの祈りを体系化して庶民に進めることによつて大いなる効果を上げたとき、十六世紀にはロザリオの祈りの創始者は聖ドミニコであると認められました。

十月七日はロザリオの聖母の記念

日ですが、これはピオ五世教皇によつて定められました。一五七一年、レパントの海戦でキリスト教徒がオスマン・トルコに対して勝利を収めたことを記念していますが、この勝利は、ロザリオの祈りによつてもたらされた聖母の助けによるものでありと信じられています。このロザリオの記念日をもつ十月は、ロザリオの月として定められています。

このようにロザリオの祈りは、長い歴史の中で聖霊に導かれて次第に変化し整えられてきました。そして多くの聖人達に愛され、奨励されてきた祈りなのです。

さて、この文章を読むと、ロザリオは喧騒の社会にあるわたしたちの心を落ち着かせる「癒し」であり、わたしたちの思いを実りへと導いてくださる「しるし」ともなります。ロザリオにはわたしたちの信仰を上へと向けさせる大きな力です。神様とともに心底語り合うのに大きく役に立ちます。語り合うのには緊張はありません。ゆったりと、心をあずけて、ご家庭でもロザリオの祈りをするひとときをもたれてはいかがですか。



「みことばと祈りの旅」

聖家族修道院 Sr 井手 潤 ちあき

二千年のオリブの樹
がありました。イエス
様が度々祈り、血の汗
を流したことを知って

いる樹です。

七月二四日から八月十日まで、聖地イスラエル・イタリア・フランスへ巡礼に行くお恵みを頂いた。私達お告げの MARIA 修道会では例年、誓願銀祝の年に聖地巡礼に行っているが、今年は福江修道院から Sr 山中・Sr 松崎、聖家族修道院から井手潤が参加した。一部を紹介します。

七月二五日から七月三〇日までではイスラエルでした。まず始めの巡礼地はイエス様がいつも祈っておられたオリブ山です。その後ゲッセマネの園へ向かいました。園には樹齡



(イスラエルの) 岩のドーム

ここで弟子達や多くの人々に話をされた聖書を思い出しました。
七月三一日と八月一日はアシジで聖フランシスコの生涯を辿りました。初めて馬小屋を創り主のご降誕を祝った修道院やフランシスコ誕生の教会サンタマリアデリアンジェリ教会などを巡礼。聖フランシスコ大聖堂を見学しながら、フランシスコが、イエス様の生涯を模倣して福音宣教を生き抜いたことを感じました。
八月二日、ローマでは四大バジリカの聖ペトロ大聖堂・聖マリア大聖堂・聖パウロ大聖堂・聖ラテラノ大

次の日は聖誕教会、鞭打ちの教会・聖墳墓教会などを巡礼。そして私達が最も巡礼したかった『お告げの教会』へ。聖マリアがガブリエルからイエス様の母になるとのお告げを受けたことを記念する教会です。お告げの MARIA 修道会の コロッセウムの神の始まりを MARIA 様が最初に表した場所です。これまでとこれからの導きに感謝と祝福と恵みを祈りました。ガリラヤ湖では遊覧船に乗りました。ガリラヤ湖は広くイエス様がここで弟子達や多くの人々に話をされた聖書を思い出しました。



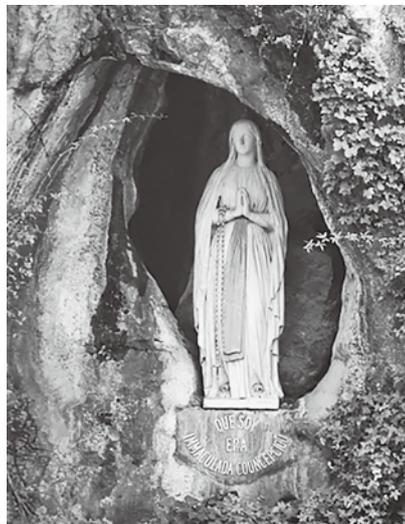
アシジの聖フランシスコ大聖堂

聖堂へ巡礼。素晴らしい建物に驚くばかりでした。

八月三日、バチカン美術館とシステイナ礼拝堂を鑑賞。素晴らしい芸術品の数々がありました。

八月四日パリに移動。ノートルダム大聖堂を見学し、聖母がカタリナラブレに出現しメダイを作らせたことを記念する教会の不思議のメダイ教会へ。

八月五日から八月七日はルルドです。毎日行われている沐浴には、多くのボランテイアがいて、一人一人の小さな奉仕が大きな恵みの力になっているのだと感じました。ルルドでは毎夜ろうそく行列が



ルルドの洞窟

行われていますが、私達は先唱をすることにしました。巡礼者がロウソクを持って行列をしている間、二回日本語でロザリオの祈りとあめりかさきを歌いました。広場にお祈りと歌が響いた時恵みが降り注いでいることを感じました。

八月八日は最後の巡礼地ヌベールです。ベルナデッタが出現の MARIA 様に一番よく似ているといわれている水の聖母像の前で祈りました。聖堂内に安置されているベルナデッタの遺体の前で祈る多くの巡礼者の姿に強く心を打たれました。

一八日間の巡礼中、残されている遺跡や建物、芸術品はもちろんのこと、伝え残してくれた方々の信仰、守って下っている方の力、それらを巡礼し見て、触れて恵みに預かるようにする人々、それぞれの思いに信仰を見ることが出来る貴重な旅となりました。

下五島小教区対抗 スポーツ大会

九月十日（日）大津みなと公園にて、小教区対抗スポーツ大会が行われた。当日は晴天に恵まれ、絶好のスポーツ日和となった。初めに中村神父様より開会の挨拶があり、その後入口議長より大会についての説明があった。

競技はペタンクとゲートボールの二種類で、福江教会からもペタンク三チーム、ゲートボール一チームが出場。シスターチームはゲートボールに、神父様方は司祭団チームとしてペタンクに出場した。

ペタンクは未経験者も多く、最初はとまどっている様子だったが、次第に慣れてくるとゲームに集中し楽しんでる様子があちこちで見られた。ゲートボールはシスターチームは初心者が多く、他教区の方から教えてもら



いながら奮闘した模様。福江教会信徒チームは経験者の活躍もあり、見事優勝を

果たしたとの事。また、中村神父様、小島神父様の司祭団チームはペタンクで準優勝を手にしたとの事。



他教区の信徒との交流も兼ねたこの大会、今回は更に多くの信徒が出場し、多くの方が応援に来て盛り上がることを期待したい。

馬小屋新しく！

今年の待降節は12月3日から。今年も馬小屋づくりの準備を始めています。昨年、馬小屋の屋根部分を撤去して石垣部分を広くしてみました。今年は、さらにリニューアルしようということで、中村神父様を中心に検討中です。

御像は従来のものを引き続き使用しますが、それ以外は大きく変わりそうです。みなさん、新しい馬小屋にご期待下さい！



昨年の馬小屋づくりの様子

敬老会 2017



九月十七日（日）二番ミサ後に恒例の敬老祝賀会が行われた。数日前から台風接近による悪天候が予想され、開催そのものが危ぶまれたものの、台風が南に逸れたため無事開催となった。しかし、雨風で足下が悪いこともあり、予定より少ない二三名の方が参加された。

中村主任神父様は冒頭の挨拶で、「子や孫の世代に信仰を繋げるために、元気に長生きして教会に来て頂きたい。」と述べられた。経済問題

評議委員の浦さんの乾杯で、楽しい会食が始まった。その後、小学生やシスターの合唱団、コールスからの歌のプレゼントもあり、会場は和やかな空気に包まれた。

宴の後半はカラオケ大会となり、多くの方々が自慢の喉を披露され元気な歌声に会場全体が大いに盛り上がった。

七五才を越えてもまだまだ元気で明るい先輩方に驚くとともに、この元気と明るさを我々も見習って教会の発展のために頑張っていかなければと教えられた思いがした。来年は、もっとたくさんの方々の参加をお待ちします。



記事 & 広報委員 募集中!!

今福江教会広報委員会では、広報誌「こころ」に載せたい記事を募集しています。内容は、例えば信徒さんの経営しているお店の紹介や、巡礼で行った教会の感想、日頃教会のことで考えていることやご意見、要望など。もちろん匿名でもかまいません！神父様か広報委員濱崎までお願いします。

また、広報誌「こころ」を編集する編集委員も募集しています。教会の行事の取材、記事作成を主にやっています。夏の聖母祭での出店（飲み物の屋台）もしています。自薦・他薦は問いません。特に他の教区から転入された方など福江教会をよく知らないという人は、行事の取材を通して教会に慣れ親しむきっかけとなるかも知れません。お気軽に神父様か、地区委員さん経済委員さんに声をかけてみて下さい。お待ちしております！

九月十七日（日）聖ミカエル中村満神父様の霊名のお祝い式が二番ミサ後に行われた。



中村神父様霊名のお祝い

の紹介を含め、お祝いの言葉があり、花束と霊的
花束の贈呈が行われた。

その後、中村神父様よりお礼の言葉があり「実は今年の四月に還暦を迎えました。体の衰えを少し感じることもあるが、まだまだ頑張りたい。これからも色々なことに取り組んでいきたい。信徒の皆さんに声をかけるので協力をよろしくお願いします。」と述べられた。

信徒の高齢化、少子化など福江教会を取り巻く課題は少なくありませんが、これからも体にならなくて下さいます。信徒を支えるべく頑張ってください！

今後の日程

● 支援コンサート

日時：10月27日（金）

開場午後6時30分 開演午後7時

場所：福江教会

入場料：無料（世界遺産登録支援のため献金お願いします。）

● 牢屋の窄殉教祭

日時：10月29日（日）午後1時

記念ミサ（御ミサ前の午後0時30分より久賀小中学校から殉教地までの十字架行列を行います。）

集合：檉の浦港よりチャーター船が出ます。午前11時00分始発、午前11時30分最終便です。

※久賀島内徒歩移動希望者は早めの集合をお願いします

● 墓地清掃

日時：11月3日（金）午後2時

午後3時より墓地御ミサ

● 初聖体式

日時：11月26日（日）二番ミサ

● クリスマスマス馬小屋、教会周辺イルミネーション飾り付け

日時：12月3日（日）午後1時から

● 聖フランシスコ・ザビエル

小島明神父様霊名のお祝い

日時：12月10日（日）二番ミサ後

《寄付・香典返し》御礼

○ 竹山 淑子様

故ミカエル 竹山 義文様

右記の方から、寄付及び香典返しとしてご芳志を賜りました。

ご報告申し上げます。と共、故人の永遠の安息を心からお祈り申し上げます。



編集後記

暦の上では秋ですが、暑い日も多いこの頃いかがお過ごしでしょうか。「こころ」発行の時点では、衆院議員選挙戦の真っ最中ということで、いつも以上に政治に関心が集まっている事と思います。国際情勢としては、東アジアの緊張が長く続き不安がなかなか解消されません。将来、戦争なんて事にならないよう私達は祈るしかありません。早く、この緊張が平和なまま解消されて欲しいものです。

今後とも、広報誌「こころ」へご支援、ご協力をよろしくお願ひします。

(N・H)